



コンテナカフェの創業から 販路開拓まで伴走支援

課題

店舗も資金調達も ゼロからのスタート

2015年に県内で初めてコンテナを店舗に活用したカフェとしてオープンしたINVIGO (インヴィゴ) は、国産小麦を使った手づくりパンのサンドウィッチと、厳選した豆を使用したフレンチプレスコーヒーを提供する店である。

加東市商工会では、創業時から同店の支援を続けてきた。きっかけは開業の1年前、当時パン店で研修中だった女性(同店経営者)が「市内でカフェを開きたい」と商工会に相談に訪れたことだった。

話を聞いてみると創業への熱意はあるものの、今まで経営の経験はなく、店舗や資金調達についても支援はゼロからのスタート。課題は山積していた。

支援

リピーターや新規顧客の 獲得に向けて販路開拓

開業にあたって商工会では、資金調達支援として日本政策金融公庫への創業計画書などの提出書類作成や確認を実施し、店舗の建設場所も提案、さらに創業補助金の申請支援も行った。これら融資や補助金の計画書の作成にあたっては、相談者の思いを大筋で固めたうえで、兵庫県商工会連合会の専門家派遣制度を活用しながら事業計画のブラッシュアップを行った。採択された創業補助金で設備の導入などを行ったことで、自己資金を運転資金にあてることができ、創業者にとって厳しいとされる創業期を乗り越えることができた。

こうして2015年に開業にこぎつけた同店は、当初は口コミなどによりリピーターが増加していたが、1年を経過する頃から、新規顧客が減少する課題に直面。その原因として、メニューのマンネリ化や、店舗の周知不足、交通量の多いロードサイドに立地していながらカフェであることを認識できない、などが考えられた。

そこで商工会では2016年、メニューや価格の見直しを支援。フードコーディネーター(専門家)と連携しながら店舗診断を行い、「メニューにキャッチコピーをつける」「ターゲットを絞ったメニュー構成にする」「ホームページやSNSを活用したPRを行う」「看板やのぼりを設置する」などを提案し、実行した。

また翌年には、小規模事業者持続化補助金を活用した販路



県内初のコンテナを活用したカフェ

開拓支援も実施。視認性向上のための看板や、子育て世代をターゲットに子どもが遊べる遊具を設置。これらにより、視認性の向上や、再来店を促進してリピーター獲得を図った。

こうした取り組みの成果は数字となって現れ、2018年度の売り上げは、前年比21.3%増加。利益も大幅にアップした。

最近の課題では、高騰する仕入れ値の対策や雇用の確保が挙げられるが、商工会では引き続き、課題解決に向けて伴走支援を続けていく。

支援の経過

期間	支援内容
2015年4月～	創業支援 (建築業者・立地紹介、資金調達)
8月	創業補助金の申請支援
2016年4月	開業 (開業、税務、労務の手続きなど)
5月	専門家派遣 (メニュー、ターゲット再確認)
2017年1月	持続化補助金の申請支援

会社概要

会社名：INVIGO
 住所：兵庫県加東市鳥居57-1
 電話番号：0795-20-5198
 URL：<http://invigo-cafe.com>
 代表者名：横田麻理子
 創業年：2015年
 従業員数：パート4名
 商工会名・担当者名：加東市商工会・加藤幸雄